

② 那覇市の水道の歴史



泊浄水場建設工事のようす (1932年(昭和7年)4月)



通水式のようす (1933年(昭和8年)11月)

那覇市は昔から水源にとぼしく、飲み水は雨水や井戸水に頼ってきましたが、昭和になって当時の宜野湾村（現宜野湾市）に水源が発見されたことをきっかけに水道を作ることになり、1933年（昭和8年）9月1日に那覇市で初めて水道が使えるようになりました。

しかし、第2次世界大戦中の1944年（昭和19年）10月10日、米軍の空襲によって、ほとんどの水道施設がこわされ、水道を使うことができなくなり、また以前のような雨水や井戸水に頼る不便な生活になりました。戦後もしばらくの間水道のない時代が続き、1951年（昭和26年）10月戦後初めての水道が開通しましたが、水源地の水の量が不足していたため、実際に給水できたのは130戸ほどでした。

1953年（昭和28年）12月、米軍から水源地、ポンプ場および浄水場をゆすり受け、1954年（昭和29年）4月から本格的な水道事業が始まりました。

那覇市は、1954年（昭和29年）に首里市と小禄村、1957年（昭和32年）に真和志市と合併したことにより、市の人口が増えたため、1963年（昭和38年）4月に泊浄水場を大きくしました。しかし、沖縄県の人口の増加にともない水の使用量も多くなったため、干ばつ（長い間雨が降らないこと）になると、各家庭に十分な水を送ることができず、たびたび断水（水道を止めること）をしていました。

今では、沖縄本島の北部にあるたくさんのダムや、海水から水道水を作る海水淡水化施設が整備され、以前より安定して水が確保できるようになったので、1994年（平成6年）3月2日以降、水不足による断水は行われていません。

なお、1988年（昭和63年）3月に那覇市の唯一の浄水場だった泊浄水場は浦添市、宜野湾市にあった水源地の水が汚れてきたことや水の量が少なくなったため廃止しました。そのため、現在那覇市で使われている水道の水は、沖縄県企業局の浄水場できれいにした水です。



簡易水道配水管工事 (昭和26年)